

14. 医学部

(1) 医学部の教育目的と特徴	14-2
(2) 「教育の水準」の分析	14-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	14-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	14-11
【参考】データ分析集 指標一覧	14-13

(1) 医学部の教育目的と特徴

1. 教育の目的と基本方針

医学部の教育目的は、「教育基本法にのっとり、学術文化の中心として広く知識を授け、医学及び保健学の各分野にわたり、深く、かつ総合的に研究するとともに、完全なる人格の育成と文化の創造を期し、民主的、文化的な国家及び社会の形成を通じて、世界の平和と人類の福祉に寄与する。」ことである。

次の基本方針によって、教育活動を実施し、名古屋大学学術憲章にある「自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人の育成、人材養成を通じた人類の福祉や世界・社会・文化・地域等への貢献」を医学・医療の分野で実現する。(1) 人類の健康の増進に寄与し、新たな医療技術の創生を担う人材の育成を進める。(2) 医の倫理を尊重し、人類の幸福に真に貢献することを誇りとする医学研究者及び医療人を育成する。(3) 医学研究、医療の両面にわたり諸施設と共同して、地域社会の医療の質を高めるとともに、我が国及び世界の医療水準の向上に資する。(4) 医学研究及び医療の中核として機能するために、人的・社会的資源を有効に活用し、世界に開かれたシステムを構築する。

2. 第3期の目標と方針

身につけるべき学力、資質・能力として、豊かな「人間性」、深い「倫理性」、幅広い「科学的論理性」、高度な「創造力・独創性」を教育目標に掲げ、これを目指す教育プログラムの実施と教育のグローバル化への対応を第3期の重点目標にしている。

全学の中期目標・中期計画にそって、次の方針を立て、目標の達成に努めている。

(1) 中期目標・中期計画 (K1: 教養・学部専門教育を充実させる) に対応した方針や取組: 問題立脚型の学習方法を導入し、自ら課題を発見し解決する能力を養成する。

(2) 中期目標・中期計画 (K5: 教育の実施体制・方法・結果を点検し、改善に活かす) に対応した方針や取組: 問題解決のための科学的論理性やコミュニケーション能力を適正に評価するシステムを確立する。教員が世界の医学教育改革の潮流に対応できる教育手法を習得するためのファカルティ・デベロップメント (FD) 活動を推進する。

(3) 中期目標・中期計画 (K3: 留学生等の多様な学生への教育を整備する) に対応した方針や取組: 世界の最高水準にある大学医学部との単位互換プログラムの充実を図る。

3. 学部の特徴

多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践により、論理的思考力と想像力に富み世界的に活躍できる医師及び医学研究者の養成を積極的に推進している。また、我が国及び発展途上国等のナショナルリーダーの養成に積極的に貢献している。国際化を見据えたカリキュラムで一貫した専門教育を行い、幅広い知識をもった高度職業人の育成のための組織体制を構築している。

4. 学生受入の状況

医学科、保健学科ともに一般入試、推薦入試及び私費外国人留学生入試を行っている。医学科では、研究者志向を持つ学生からの出願に期待することを募集要項に記載し、面接試験により、医学研究者への志向性を持ち、将来研究医を目指す能力と資質を有した人物を重視した選抜を行っている。推薦入試による入学者は、正規のカリキュラム以外に研究医養成に関連するプログラムに参加することとなっている。学士の学位を持つ者を対象に編入学試験を行っている。また、緊急医師確保対策に基づく特別枠を設け、愛知県内の地域医療を担う人材を育成することを目的として後期日程で入試を行っている(定員5名)。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 4514-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 4514-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 4514-i3-1～7）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 4514-i3-8～10）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学科では研究医志向の学生による医学部学生研究会（別添資料 4514-i3-10）を組織し、兼任教員4名、専任教員（助教）1名、事務補佐員1名の体制で、1年生に対し研究への参加を促す取り組み（ラボツアー、メディカルサイエンスカフェ、研究室配属、ベーシックミーティング）と、2年生から6年生までの研究活動を行っている学生をサポートする取り組み（進捗報告会、国内・海外派遣、全国リトリート）を行っている。2016年度からは基礎医学研究者育成プロジェクトの後継事業として世界をリードする次世代MD 研究者・育成プロジェクトを開始し、2017年度には神戸にて全国リトリートを行った。2019年4月末に、日本医学会総会開催に合わせて、本学で全国リトリートを開催した。[3.0]

名古屋大学医学部 教育活動の状況

- ・名古屋大学医学部学生研究会（別添資料 4514-i3-11）

○ 保健学科では、1～2年次の教養教育に各専門職関連教育と実習を積上げ、大学院での研究につながる卒業研究と論文作成とともにカリキュラムを構成している。国家資格取得のための指定規則教育に加え、国際的人材育成として教育短期海外派遣研修プログラムの実施、2018年度以降には医療情報科学領域の教員による卒業研究指導を取り入れている。[3.1]

- ・実習等の実施状況が分かる資料（別添資料 4514-i3-12～16）

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
（別添資料 4514-i4-1～3）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
（別添資料 4514-i4-4～11）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
（別添資料 4514-i4-11）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
（別添資料 4514-i4-12）
- ・ 指標番号5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 後期入学生を対象とした「地域医療セミナー」を課外授業として定期的に関講し、地域住民の医療や福祉ニーズに関する理解の促進に努めている。年間5回の開催で、1年生から4年生までは必修参加、5・6年生は任意参加としている。例年、夏休みには後期入学生の1～4年生が数名ごとのチームを作り、将来彼らが勤務する可能性の高い地域の病院を訪問している。訪問前のセミナーでは、チームごとに「地域の医療機関に求められるものとは」という題目でグループディスカッションと発表を行い、準備状態を高めている。訪問後のセミナーは、見学先の病院の先生方を招き、総合診療、多職種連携、地域の医療福祉連携などの観点から、発見したことや気づきをグループごとに発表する機会としている。また、地域医療に求められる多職種協働力を涵養するため、多職種連携教育(IPE)に重点を置き取り組んできた。その中でも医学科1年次の医学入門特別講義における

名古屋大学医学部 教育活動の状況

地域医療、5年次における臨床実習における IPE は、地域枠医学生に限らず全ての医学生に対する教育を行っている。そのほか、4年次の「地域医療学」では地域医療について、愛知県の講師や他大学の講師を招いた講義を行い、地域医療の現状と展望を教育している。[4.1]

- ・地域医療セミナーの実施状況（別添資料 4514-i4-13）
- ・地域医療教育学講座による IPE 関連の業績（別添資料 4514-i4-14）

○ 保健学科では、講義、演習に加え主に3～4年次に関連医療施設にて臨床実習、臨地実習を行っている。関連医療施設は大学附属病院から地域医療施設まで多種にわたり、各専門職教育の実践に加え地域医療、多職種協働・連携に関する学修する機会となっている。実習については各医療専門職の特性に従って教員のほか施設における教育指導者（スーパーバイザー）の指導を受け実践的教育を行っている。大学院研究につながる卒業研究は臨床実習に前後して実施され、基礎的研究と臨床実践の双方の視点から学習を深める構成となっている。[4.1]

- ・保健学科における各種実習の実施状況を確認できる資料
(別添資料 4514-i4-15～19)

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・履修指導の実施状況を確認できる資料（別添資料 4514-i5-1）
- ・学習相談の実施状況を確認できる資料（別添資料 4514-i5-2）
- ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を確認できる資料
(別添資料 4514-i5-3)
- ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況を確認できる資料
(別添資料 4514-i5-4)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 名古屋大学は、2001年に学生相談総合センターを設置し、学生相談部門、メンタルヘルス部門、就職相談部門、障害学生支援室が連携しながら学生対応、ならびに支援を行ってきた。そして、2019年4月にキャリアサポートと共修推進を統合し、学生支援センターという総合的な学生支援組織として新たに発足した。学生相談部門では、臨床心理学の専門家である臨床心理士の専門相談員が、自分自身について、家族関係や友人・恋人関係、学内の人間関係、学生生活や研究活動、修学・進学、こころの不調など、あらゆることに関する相談及びカウンセリング

名古屋大学医学部 教育活動の状況

を行っている。助言やカウンセリングを通じて、学生自身で問題解決の糸口を見つめるための援助を行う。学生対応にお困りの教職員やご家族の方からの相談も受け付けている。[5.1]

- メンタルヘルス部門では、精神科医が、心の不調、それに伴う身体の不調に対応する。抑うつや不安、不眠などの精神的悩みに対して相談に応じるだけでなく、必要に応じて薬物療法などのために学外の医療機関を紹介する。他にも学生の指導教員や保護者からの相談にも応じている。鶴舞キャンパスにおいても相談室を毎週木曜日 11:00～16:00 に開いている。また、医学科では、入学時に個々の学生に対して、学生生活のあらゆる問題について相談すべき担当教員（医学系研究科および附属病院の教授）を割り振るメンター制度を採用している。取得単位が不足するなど進級に支障を生じている学生については、担当教員が個別面接を行い学生が抱える問題点を確認している。個別面談内容に基づいて、学部教育委員会で、当該学生が抱える問題点とその解決策について検討している。[5.1]
- 保健学科においても、入学時にすべての学生に指導担当教員が1名ずつ割り当てられ、学習の進捗状況の把握に加え、学修や学生生活に関するアドバイスを行っている。必要に応じて個別面談を実施している。3～4年次には卒業研究の指導担当の教員も、研究指導に加え進学・就職に向けての個別の支援や相談を受け体制をとっている。保健学科のある大幸キャンパスでは毎週水曜日～金曜日（午前あるいは午後）に相談室が開かれ、学生支援センターからの相談員が就職、メンタルおよび学生生活に関する相談を受けている。また、年に1回（6～7月に実施）学生および大学院生との学生懇談会を実施し、学習環境や学生生活における学生目線での問題や要望を聴き、キャンパス整備に反映させる機会を設けている。[5.1]
 - ・保健管理室鶴舞分室について（別添資料 4514-i5-5）
 - ・大幸学生相談室（分室）ポスター（別添資料 4514-i5-6）
 - ・学生懇談会資料（別添資料 4514-i5-7）

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 4514-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 4514-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 4514-i6-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学科は、2021年に医学教育分野別評価を受審する。国際基準に照らし合わせた時、現行のカリキュラムで対応できていないのが、臨床実習の期間とその内容であったため、臨床実習Ⅱ（選択実習）の期間を延長し、臨床実習Ⅰ・Ⅱの質（内容、評価法）を向上させるべく、カリキュラム改変を行った。2019年度からは、臨床実習Ⅱを現行の3タームから6タームに倍増し、診療参加型実習を増加する。一方で、4年次に行っている臨床講義の授業時間を90分から60分に短縮することで、コマ数を減らすことなく授業時間を減らした。また、臨床実習の開始を4年次1月から前倒しする予定である。これらにより臨床実習期間は、59週から65週まで増加した。[6.1]

- 保健学科は、講義および実習について指定規則に従った専門職教育カリキュラムを実施しつつ、加えて本学科独自の科目の履修を加えている。3～4年次に実施する臨床実習前に専門基礎科目および専門科目の履修を必須とし、実習前までの学習達成評価を行っている。学習成果評価方法についてはシラバスに記載し学生に周知している。臨床実習における臨床能力の評価は実習地での指導者（スーパーバイザー）による評価とともに担当教員が総合的に評価を行うことで学生の学修成果を多面的に評価している。[6.1]
- ・ 教育課程と指定規則との対比表（別添資料 4514-i6-5）

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 4514-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 4514-i7-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学科では、医学科教授会で卒業・進級等に関わるチェックを行っている（共用試験 CBT、共用試験 OSCE 及び卒業前 Advanced OSCE の判定を含む）。4年次に実施される共用試験（CBT、OSCE）に合格することが進級の必須要件となっている。CBTについては2018年度から全国の医学部・医科大学と共通の基準（IRT43以上）で判定しており、例年ほぼ全員が合格している。また、医師国家試験の合格率は近年 93.5～97.3%を維持しており、全国平均を上回っている。[7.1]

名古屋大学医学部 教育活動の状況

- ・ 医師国家試験合格率（別添資料 4514-i7-4）

- 保健学科においても、教育 FD 委員会および保健学科教授会にて卒業と進級に関わる履修のチェックと判定を行っている。3～4年次に実施される臨床実習前までに専門基礎科目および専門科目の履修が必須となっていることで、臨床実習前までの学修の経過が把握され、指導が行われている。課題研究は卒業研究として実施され、専攻ごとに全教員参加のもとで行われる研究発表会および卒業研究論文集の作成を通じて研究の評価がなされている。[7.1]

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 4514-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 4514-i8-2）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 前期・後期試験による入学者は東海4県（愛知・岐阜・三重・静岡）、特に愛知県に集中している。一方、医学科で実施している推薦入学及び編入学の導入は、愛知県外の学生の増加（一般入試の愛知県出身率は約60%であるのに対して、推薦/編入学生はそれぞれ30%と9%）、すなわち入学者の多様性の獲得に役だっている。また、学部教育委員会を中心に、学生の適性に応じた多様な学習方略を導入し、自己啓発力の強化を図ってきた。初年次からの臨床現場での実習（早期体験実習）、臨床実習での海外協定校への派遣及び準備教育の実施、第3年次編入学制度などに加えて、①4年次の臨床教育における「接遇教育」（医療面接とは別枠の社会人としての態度、礼節教育）、②地域医療教育学講座によるシネメディケーション実習なども導入した。[8.1]

- ・ 入試制度別の出身県分布（別添資料 4514-i8-3）

- 保健学科で実施している推薦入学においても、東海4県以外からの受験生の獲得に効果が認められる。入学者は適性数（定員充足～定員1.2倍未満）を維持している。[8.2]

<選択記載項目 A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 4514-i4-12）（再掲）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 5-6 年次の臨床実習の期間に、毎年 20 名以上の学生がジョンスホプキンス大学、ノースカロライナ大学チャペルヒル校、ウィーン大学、フライブルク大学など交流協定を締結している海外の一流大学において臨床実習を行っている。派遣学生は一定以上の英語能力を持つことを条件とし、国際交流委員会が英語による面接を実施するなどして決定する。派遣前にはこのプログラムで海外の臨床実習を体験した若手医師が英語での医療面接法等について約 10 回の準備教育を行い、充実した実習が行える体制を整備している。また、一方で海外提携校から 7-32 名の外国人留学生を受け入れており、学生間の交流も奨励・推進している。海外協定校への派遣・受入ともこの 10 年間で飛躍的に増えている。協定校への派遣は 2010 年には 10 名であったが、2019 年は 22 名と倍に増加した。受入は 2008 年に 7 名であったが、2019 年には 32 名と 4 倍強に増えている。[A. 1]
- ・ 海外への派遣留学生数（別添資料 4514-iA-1~2）

<選択記載項目 B 地域・附属病院との連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 5 年次の臨床実習では、名古屋市医師会の協力を得て、地域の開業医宅で 3 日間の実習を行っている。その前週に配置される総合診療科、後の週に配置される老年内科・在宅医療の実習と合わせて、プライマリケアに関する教育の充実に努めている。[B. 1]
- ・ プライマリケア実習先一覧（別添資料 4514-iB-1）
- 保健学科では、3～4 年次に行う臨床実習において、近隣の医療施設（臨床実習指導施設）の協力により周産期医療から老年医療、在宅医療、プライマリ医療、障がい児者施設等を含む専門職教育全般におよぶ臨地実習、中核医療機関におけ

名古屋大学医学部 教育活動の状況

る高度医療に関する実習を行っている。また、協力医療機関や自治体、企業等から講師を招聘（非常勤講師による講義）し、幅広い医療活動に関する教育を行っている。[B.1]

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 名古屋大学では、新規採用時に、新任教員研修として講義・実習技術から研究倫理、人事・労務上の規定まで事細かに教育・指導するFDを実施している。この大学全体のFDは年2回、春と秋に定期的で開催されている。医学科においても独自に、教育内容の充実・改善を目的として医学教育ワークショップを年3回実施している。1998年から開講されたこのワークショップは、基礎・臨床を問わず医学科の全教員を対象とし、各々の教員が1回は受講することと定めていた。現在では、新規の臨床系教員に対しての新任FDとして実施している。1998年度から現在までに60回を超え開催され、教員の約8割が受講している。[C.1]

・医学教育改革ワークショップ概要（別添資料4514-iC-1）

○ 保健学科においても全教員を対象として、教育、研究、人事・労務等、大学教員の基本的活動に関する年2回（春と秋）のFDに加え、個人情報やハラスメント、学生指導等に関するFDやワークショップを年に2～3回実施している。すべての教員は毎年「教育個人評価活動報告書兼自己評価書」を用い、教育実績について評価を受けている。[C.1]

・FDの開催状況が分かる資料（別添資料4514-iC-2～3）

<選択記載項目D リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料4514-iD-1～2）
- ・指標番号2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 学士以上の学位を有する者を対象とし、医学研究者への志向性を持つものを

名古屋大学医学部 教育活動の状況

選抜する制度として、毎年5名の3年次編入学生を選抜している。出願者の多くは、4年制もしくは6年制（薬学・獣医学など）大学を卒業後、大学院に進学している学生か、実社会（企業もしくは研究所）で働いている社会人である。編入学者は希望する基礎系研究室で3年次から6年次まで継続して研究し、6年次に成果の発表を行っている。編入学生の成績は一般に良好、特に基礎医学成績は前期・後期・推薦制度で入学した学生に比して、もともと成績がよかった。また、工学、理学など従来の特長での知識と経験を生かして、所属研究室や一般入学の学生に良い刺激を与えていると指導教官からも評価されている。この制度で最初に編入学し、卒業した学生が義務研修を終える時期が到来しており、医学研究者としての活躍が期待される。[D.1]

- ・入試別の卒業時成績解析（別添資料 4514-iD-3）

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 4514-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 4514-ii1-2）
- ・ 学部卒業時アンケート集計結果（別添資料 4514-ii1-3～4）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）
- ・ 医学課程卒業者の医師国家試験合格率（厚生労働省公表）
- ・ 歯学課程卒業者の歯科医師国家試験合格率（厚生労働省公表）
- ・ 薬学課程卒業者の薬剤師国家試験合格率（厚生労働省公表）
- ・ 看護学課程卒業者の看護師国家試験合格率（厚生労働省公表）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 3年次後期の基礎医学セミナーでの研究室実習の期間は約半年に及び、同様のカリキュラムを持つ大学の中でも極めて長期間の部類に属する。セミナーでは、学生が主体となった実験研究や海外フィールド実習などが行われ、終了後に研究発表会を行っている。セミナー終了後も研究を継続し、論文の著者として名前を連ねる学生、国内や海外の学会で発表する学生も多数に上る。[1.2]
- 保健学科では、各専門職それぞれ約半年間の臨床実習と並行して、基礎および臨床医療の領域において3～4年次の約1年半をかけて卒業研究を実施する。成果は卒業研究発表会での発表および卒業論文集の発刊として報告される。各専門職国家資格試験受験資格に必要な科目履修が卒業要件に含まれることから、卒業見込学生のほとんど（令和元年度 99.50%、平成30年度 99.06%、平成29年度 99.04%、平成28年度 96.17%、H27年度 94.47%）は4年次の2月末に実施される国家資格試験を受験する。[1.2]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業生の大多数は、中部地区の中核病院で臨床研修を行っている。地域医療の

中核となって貢献するという学部の教育目的にかなっていると言える。 [2.1]

- 保健学科の卒業生は、全体で約6割が医療施設および地方行政への就職、3割が大学院進学、1割程度がその他の就職を選んでいる。就職あるいは進学の割合はほぼ100%（令和元年度卒業生では99.02%）を維持している。 [2.1]

- ・ 学部卒業時アンケート集計結果（別添資料 4514-ii2-1）

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
（別添資料 4514-iiA-1～6）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 原則として3年に1回、全学年・全科目を対象として講義・実習アンケートを行い、結果の講評とともに報告書を作成している。直近に行ったアンケート結果によれば、学生の評価は総じて肯定的であり、大半の講義・実習について80%以上が「良い」又は「どちらかと言えばよい」と回答している。 [A.1]

<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2017年度に実施した卒業生に対する学業成果についてのアンケートによれば、『科学的論理性』、『想像力（独創性）』、『倫理性』に関し、医学部医学科卒業生のそれぞれ35、48、86%がこれらの資質が育まれたという意見であった。
[B.1]

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。